

第9回 稲敷市事務事業評価 外部評価委員会

日時：令和元年 10月9日（水）午後1時30～
場所：稲敷市役所本庁舎 3階北321会議室

発言者	発言内容
-----	------

1. 開会

事務局	<p>それでは改めましてこんにちは。ただいまより第9回目の外部評価委員会を開催させていただきたいと思います。</p> <p>早速ですが、まず結果の報告ということで、会場を移して、市長へ報告書の提出をしていただきたいと思います。その後、写真撮影をさせていただきます。</p>
-----	--

2. 市長への報告(応接室にて)

- 1) 外部評価結果の報告
- 2) 写真撮影
- 3) 市長あいさつ



市長	<p>ただいま横須賀会長より報告書を頂きました。外部評価委員会の皆様には長期に渡りご尽力頂きましたこと、感謝を申し上げます。稲敷市で外部評価が導入されて、今年で3回目となり、職員にもこの取組が十分浸透してきたことと思います。来年度以降、総合計画・行革大綱・総合戦略を一体的に策定・管理し、委員の皆様から頂いたご意見を踏まえ、今後の事業見直しを図り、来年度以降の計画や次年度予算にも反映させて参りたいと思います。委員の皆様は、今年度末で一旦終了と聞いております。長年にわたってのご尽力、誠に有難うございました。</p> <p>外部評価は、次年度以降についても引き続き実施して参りたいと考えてございますので、その際は本日委員の皆様から頂きました講評を踏まえ、市としてより良い市民サービスの提供が図れるよう、常に意識し、取り組みたいと思います。</p> <p>結びに、委員の皆様におかれましては今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。</p>
----	---

4) 各委員の講評

諸岡副委員長	<p>外部評価として心掛けてきたのは公平性です。客観的な意見を述べさせてもらうよう、事務事業の担当の方達に色々とお聞きしながら進めて参りました。</p> <p>今年は少子高齢化を特に感じました。財政面で厳しい状況にあり、稲敷市民として厳しい目で精査して時には切る決断も必要だと改めて感じました。新しい事業を始めるにも、拡大・拡張・成長を望む時代ではないように感じます。いつまでもやる必要のない事業を踏襲し続けることもないですが、必要な事務事業との判断が難しいところだと思います。</p>
--------	---

	<p>色々と勉強させて頂きました。良い機会を頂けて改めてお礼を申し上げます。</p>
小林委員	<p>400以上ある市の事業の中の90弱でしたが、3回ほど事業評価をさせて頂きました。一点だけお話をさせて頂きたいのが「自主防災組織」を組織化する事業です。事業開始が2016年ですが、4年経っても1件も組織されていません。以前、消防団・区長・民選委員で三位一体になり、組織を作るという会がありましたが、そちらもやはり結実していません。</p> <p>先日、台風15号で千葉県が大きな被害を受けました。市長さんも東地区を視察されたと記憶しておりますが、茨城県内でも県南で被害が大きくなっています。今週末に台風19号の予報がありますが、行政は公助を地域にどうすればいいのか。災害対策本部を設立しても、限られた職員数の中では、人的公助がほとんど出来ないのが現実だと思います。そのためには、地域に自主防災組織が不可欠でしょう。今年、2件予定していると担当から聞きました。一刻も早く、3、4年の間に行政区単位で作りたいというお話でした。地域の共助が出来るような体制づくりが必要だと思います。</p> <p>国からも障がい者・高齢者の避難経路や地域での支援体制を構築する避難計画を早急に策定するべきだという指針が掲げられています。担当課で要支援者の名簿を調査していると思います。それを基礎として、地域の自主防災組織を活用しながら、きめ細かい計画を立てるよう、一刻も早い組織作りを市長にお願いしたいです。</p>
中村委員	<p>3年間務めさせて頂きまして、この他に入札監視委員会に参加させて頂いているのですが、稲敷市と関わっているのはこの仕事だけでして、中々知識も不足している中でどこまで取り組んでいったのかという不安は残りますが、一巡した中で私が強く感じたこととしては、自分の所轄の中の仕事に留まってしまふような縦割りを感しました。一例として、天然記念物のオオヒシクイについてです。稲敷市のPRという点でも材料になり得るものだと思いますが、保護の観点で「餌場は所轄ではない」というご説明だったのが大変残念でした。</p> <p>市民の目線からすると、市役所の職員はどこの課だとしても市役所の人でしょうから、縦割りは中々理解が出来ない所だと思います。確かに普段の仕事が忙しいと思いますが、なるべく横断的に、市全体として見た時にサービスが行き届いているか？という点を大切にしたいと思います。</p> <p>委員に選んでいただいた理由は資格を所持しているからだと思いますが、委員の方々のご年齢を見ますと大変偏っている印象を受けました。少子化が稲敷市でも問題になっていますし、機会があれば小中学生がいる家庭の方も委員に入れて頂きたいと思います。私ももう子供が手を離れてしまっているので、必死さがおそらく違うだろうと思います。</p>
野村委員	<p>私も3年間色々と勉強をさせて頂きました。子育て分野のヒヤリングをさせて頂き、この十数年で4クラスあった中学校はたった半分になるなど少子化は本当に深刻だと感じています。2クラスも維持が出来なくなると、幼稚園から中学まで顔なじみになり、課題を抱えているお子さんや保護者への支援も重要になってくると考えられます。</p> <p>報道でも児童虐待が問題になり、全国、茨城県でも認識が高まったことで、通報・通告が児童相談所にはたくさん寄せられ、ケースが増加していることと思います。課題も種類が多く、障がいのあるお子さんでもいくつかのクラスに分けて対応しなければいけない問題ですし、2割を超えたひとり親家庭など、物質的にも精神的にも厳しいと子どもに対する余裕がなくなりやすいです。</p>

	<p>また、虐待など支援が必要な家庭というのは、地域で孤立していることが多く、声が掛けにくい現状があります。</p> <p>ですから、関わっている部署の皆様は個人情報の取り扱いが大変難しいと思いますが、子供の問題は展開が早いので、情報を共有し、迅速で正確な対応を心がけていただくことを望みます。少子化の中でも更に課題のある家庭が多くなってくると思います。0歳児からの健診で100%の受診率ではない場合、もう既に問題が発生しているということです。保健師からカウンセラー、不登校担当の教師まで繋がって見守れるよう、支援できたらいいなと思います。</p>
横須賀委員長	<p>一年目より二年目。二年目より三年目。三年目は新たな市長の体制の基で新たなステップアップがみられるかと思いきや、そうでもないなというのが実感です。日本の行政が転換期に来ている中で、今が稲敷市にとって重要な時期ではないかと思えます。</p> <p>先ほどオオヒシクイの話がありましたが、ネタにして何かに活かそうと考える人があまりいない。</p> <p>稲敷市や茨城県の魅力を誇る土壌を、行政の人間だけでも作っていかねければ稲敷市は中々状況が改善しないと思います。</p>
市長	<p>公平性が最も重要ということで、稲敷市も必死になって次から次へと色々なことをやってきますが既存事業を捨てきれない部分もあり、膨らんでいく一方です。職員に負担がかかっている部分はあると思いますので、切るべき事業は切っていくのは1つの手だと思います。しっかりと判断していきたいと思います。</p> <p>自主防災組織については、私は消防団員だった経験がありますのでいつ組織されるのかというのは強く思っていました。よく三位一体というお話がありますが、市として防災士の資格取得の補助をしていて、市内に200名以上の防災士さんがいらっしゃるはずなので、そういう方々を含めて地域防災の組織が出来ればと思います。区長が数年で変わってしまうのが難点ですが、有効に活用出来れば望ましいと考えています。</p>
委員	<p>結局は市長が仰るように、地域に入り込む人がいないといけません。区長制度は義務的に行われているのが主で大体一、二年で変わってしまうが、引継ぎを上手くすればいいと思います。規約が必要なのであれば、ある程度市でルールを引いてやれば、組織はそう難しくないのではと感じます。</p> <p>前々年くらいまでは、防災倉庫を年に1ヶ所しか作ってもらえなかったのですが、今では3~5ヶ所を設置してもらえるようになりました。それがせっかくあっても、防災無線で避難所を設置したと放送されても、果たしてどのように活用できるのか、市民には分からない。</p> <p>地域に入り込んだ組織作りをまず行ってもらいたい。</p> <p>ゲリラ豪雨や台風は、毎年酷くなるような印象があります。県南で利根川の近辺ではハザードマップも製作されていますし、地区ごとに強化すべきものが組織化されることにより、話し合いが進むのではないのでしょうか。よろしく願いいたします。</p>
市長	<p>オオヒシクイの話もありましたが、合併前の江戸崎時代はオオヒシクイの重要性は市の中でもう少し高いところにあったと記憶しています。私もオオヒシクイを観察しに行ったりしていました。何が一番大切かといえば、「ここは越冬地なので守ることが大事。物凄く警戒心が強い鳥なので、実際は人にあまり近寄らないでほしい。」というのが保護団体の意向です。梅雨の時期、井戸まで掘って水を飲める場所を作るまでしました。なんの</p>

	<p>ためにやるかといえば、オオヒシクイのためですので、私も頑張っていきたいと思います。</p> <p>ここ数年、昼間いなくなってしまうんです。昼は霞ヶ浦に行って、夜に帰って来て朝にご飯を食べて昼間もいるようであった。最近では朝にご飯を食べた後にいなくなってしまう、追跡したら海まで行っているという話でした。このまま放置してしまうと、この越冬地からいなくなってしまうのではないかというのが考えで、その為の対策としてなるべく干渉しないべきだという方もいれば、写真を載せて人を招き込む必要があるという考えの方もいて、苦勞しているようです。どれが正解かがまだ分からないので、出来るだけ静かに見守るのが1番よいのではないかということで、鳥獣保護員と一緒に取り組んでいるところです。ただ、これをアピールすることはとてもよいことだと思います。天然記念物で、ましてや越冬地しては最南端ということが売りですので、そこは情報をより流す必要があると思います。</p>
委員	<p>東地区のミルキークイーンはかなり PR をしています。それと一緒にコシヒカリでも、5キロくらいの小袋でネーミングを工夫するだけでも、皆さん買っていかれると思います。他自治体の例では、トキはピンクなのでピンク色のパッケージにするなど、そのような取り組みも市の1つの売りです。</p> <p>昨年にサイクリングの評価をさせていただいた時も、稲敷市は和菓子屋が多いとおっしゃっていました。そのような地域の人にとっては至極当たり前のものも、休憩や食事ができる場所になりますし、合わせてお米を置くのもよいかもしれません。ただ、動物や鳥類は足に綱を付けておくわけにはいきません。そのままにしておいてほしいと地権者の方に言っても、エリアの保全も必要です。</p> <p>昨年、敬老会事業を評価させていただいた時に、昨年はたまたま国体でトランポリンの会場になるので照明器具を取り換えるため、予算の金額が大きい敬老会事業を行いませんでした。キャパシティの問題があり、来たくても来られなかった人がいます。そのような中で、市として敬老事業をどのようにしていくのがよいか検討していただきたいということ、昨年ヒヤリングし、幅広く該当者にアプローチできるような手法を検討してくださいとお伝えしました。今年は経過を見るためにお話を伺うと、今年は午前中に行い 11 時半に終わり、お弁当も出さないとのことでした。11 時半までに全地区のお年寄りが一斉にバスに乗ることができず、移動するのに長時間を待たねばならずお弁当もでない。なぜこのような敬老会になってしまったのかと思います。</p> <p>そのようなことも含めて見直す時期に来ていると思います。方向性を地域に任せるなどの考えも1つの手法としてあると思います。お住まいの地域の公民館や集会所に集まってもらえば、行ける方もいると思います。それだけがよいとは言いませんが、そのようなことも念頭に入れながら、再考をしていただきたいと思います。</p>
市長	<p>皆そうなのですよ。地区ごとで敬老行事を行い、市としてはそちらに割り振ってお茶菓子やお弁当を提供すればよいのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>お茶会で十分な場合もありますし、これから団塊の世代がどんどん増えてくると、高齢化率が40%をすぐに超えてしまうと思います。そういった時に、当然開催場所が1、2カ所では難しいので、市長もそのような考えがあるのであればやっていただきたいと思います。</p>

市長	老人会などでカラオケ大会を開催していますよね。あのようなスタイルが一番よいと思います。文化協会に協力していただいて。お年寄りの方が自分たちで開催していますよね。
委員	あまりお金もかかりませんからね。
委員	私の母親が出席させていただいていましたが、90歳の時からは参加しなくなりました。結局トイレが近くなってしまい、仮設トイレを沢山付けていただいているのですが、そこまで行くのが大変だということです。確かにあれだけの人数がいれば、トイレを沢山設置しても大変だと思います。
市長	お弁当とお茶菓子を付けているということでしたので、お茶菓子をやめてお弁当だけにすればよかったですよね。また、紅白まんじゅうは無駄だと思います。代わりにお店でその金額分のお菓子を渡してくれる方がよいと思います。 あとは今まで行っていない人に対して、タオル1枚を提供していましたが、グレードを上げてほしいとのことで、お茶を配っています。番付表も来た人しかもらえませんが、全員に配られるようにしました。
委員	毎年小学校の方に出向いて、子どもクッキング教室を行っています。「食育」ということで、地元の食材を使用したり、地元の伝統食を子どもたちと一緒に作っています。調理の工程を教えるのも大事なのですが、情緒面で帰った時にいい匂いがすると幸せな気持ちになると思います、そのような家になって下さいという気持ちで行っています。メニュー面ですと、桜川ではれんこんバーグ、いちご大福などを毎年作っています。 また、高齢者の方で運動を取り入れて、健康づくりに力を入れています。健康寿命の延伸にも力を入れてもらえたらと思います。
市長	シルバーリハビリ体操も、毎年講習を受けていただいて、指導士の養成をしておりますよね。
委員	地域によってムラがあり、指導士が多い所と少ない所があります。そこで、他の地区の人が出向いてやって下さる場合もあります。そのリハビリ体操と一緒に、料理や試食を行い、シルバーカフェを保健所からの指導で行っています。高齢の方たちは足がないので公民館単位で実施しないと送迎できないと思います。
市長	ボランティアの方でサロンなど様々な取組をやっていただいていますので、それを広げながら、旧4市町村単位かもしれませんが、更にもっと小さい単位でできるとよいですね。
委員	横の連携も必要ですよ。
市長	そういった場所づくりが必要です。
委員	集会所も統合して、無くすところもでてくるかもしれませんが、過疎化しても集会所は何カ所か運営していかないと、高齢者が集まる場所がなくなってしまう。
委員	カフェやサロンのような場所があれば来ますからね。やはり意図的に場所と時間を用意しなければいけません。
委員	県や市の取り組みで大きな成果を出した長野県は健康寿命日本一の県です。茨城県は生活習慣病のワースト10位以内にいつも入っています。
委員	とにかく健康寿命が伸びてみんなが健康になるとよいですね。
市長	健康が一番ですからね。
委員長	そろそろ時間ですかね。本日は長い時間ありがとうございました。

市長	どうもありがとうございました。
----	-----------------

以上